

「これからの 10 年」に向けての抱負
—過去を振り返り、未来を展望する—
Aspirations for the “Next Decade”:
Reflecting on the past and looking to the future

神谷 善弘 KAMIYA Yoshihiro¹

1. JACTFL 発足への前史

手元に当時の記録が残っておらず、正式な日にちを示せないが、1998 年の夏にロシア語の臼山利信さんからコンタクトがあり、「高等学校におけるドイツ語教育の現状と課題」についてインタビューを受けたことが、JACTFL 発足へのスタートラインだったと私は考えている。カリタス女子中学高等学校でフランス語を教えていた山崎吉朗先生との出会いも、この時期である。臼山さんの紹介で、当時は八王子にあった日本私学教育研究所でお会いした記憶がある。

記録を辿ったところ、少し前の 1996 年 4 月に、東京ドイツ文化センターにて「高等学校ドイツ語教育研究会第 6 回春季ゼミナール」が開催されている。日本フランス語教育学会、全国高等学校中国語教育研究会、新英語教育研究会の方々の参加を得て、「高等学校における英語以外の外国語教育の現状と問題点」というテーマで意見を交換した。学習指導要領、大学の既修者受け入れ体制、外国人教員、教員養成・採用、教科書、大学入試の 6 つの観点で活発な議論が行われた。

1997 年 8 月には、当時は新宿にあった国際文化フォーラムにて「第 1 回外国語教育の多様化を考える会」が開催されている。ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、英語の教員と国際文化フォーラムのメンバーが集まり、「何が外国語教育の多様化を阻んでいるのか？」というテーマで意見交換をしている。中野佳代子さん、水口景子さんとの出会いの場でもある。

私は、1998 年 6 月発行の『高等学校ドイツ語教育研究会会報第 10 号』（高等学校ドイツ語教育研究会編）所収の「英語以外の外国語教育を活性化させる方法—ドイツ語教育を横軸と縦軸で考える—」において、高校ドイツ語教員のみでは解決不可能であり、縦と横の繋がりがどうしても必要であると訴え、大学・高専・高校・

¹ 所属：大阪学院大学 Osaka Gakuin University

中学のドイツ語教員による連携とドイツ語以外の外国語教員との連携を促進しなければならないと主張している。

そこから時は流れ、2007年5月に、当時は麹町にあった日本私学教育研究所にて「多言語教育研究会第1回会合」が開かれた。私と白山さん、中国語の本間直人さん、フランス語の水林章先生、櫻木千尋さん、研究所の専任研究員になられた山崎先生の6名で、懇親会も併せ本音の意見交換を行ったのも楽しい思い出である。

そこから少しずつ、それぞれのネットワークにより、多様な外国語教育関係者が集まるようになり、複言語教育研究会と名称を改め、今に至る。2ヶ月に1回程度で活発な研究会が続いており、その地道な積み重ねの中で、5年後の、2012年12月にJACTFL設立の運びとなったのである。

2. JACTFL これからの10年へ向けて

JACTFLにおける今後の活動の一つとして、文部科学省との協力で、初等中等教育における英語以外の外国語教育を活性化して行きたいと考えている。

2022年10月現在、中央教育審議会では「第4期教育振興基本計画(2023年度～2027年度)」に関する議論が行われている。2022年度中に出される答申を受けて、新しい学習指導要領に関する具体的な議論が始まることが予想される。

私は、2020年発行の『一般財団法人日本私学教育研究所 調査資料 第256号 グローバル教育と私学—SGH、国際交流、探求学習、IB教育、複言語教育—』(日本私学教育研究所)所収の「学習指導要領における『英語以外の外国語』に関する考察～「外国語活動」「外国語」の「目標」におけるキーワードの変遷も絡めて～」において、次のようなことを述べている。

英語教育の重要性は否定しないものの、真のグローバル教育を実現するためには、初等中等教育における「英語以外の外国語」を疎かにしてはならないと強く主張する。1989年までは、学習指導要領、指導書、学習指導要領解説等の調査研究協力者や作成協力者等の中に、ドイツ語教員とフランス語教員が含まれていた。次期学習指導要領の改訂にあたって、とりわけ小学校「外国語活動」ならびに小学校・中学校・高等学校「外国語」の「目標」を議論する際には、「大学入試センター試験」「大学入学共通テスト」の科目でもある『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』をはじめ、多様な言語の教育に携わっている研究者や教育者を、調査研究協力者や作成協力者等の中に加えていくことが望まれる。

JACTFL これからの10年で、何とかして実現したいものである。